

令和7年度 茨木市施政方針

共創が共鳴し
広がっていくまちへ

3月4日から市議会定例会が開かれ、福岡洋一市長が令和7年度の市政運営の基本姿勢を示す「施政方針」を発表しました。その一部を紹介します。

※市長が示す6本柱の政策の主な事業は、広報いばらき5月号で紹介します。

問合先 政策企画課 ☎ 620・1605

令

和6年は、能登半島地震、初の南海トラフ地震臨時情報発表、災害級の猛暑など、自然災害や気候変動の脅威を改めて思い知らされた一年でありました。また、物価の高騰も長期に及んでおります。基礎自治体の使命として、災害への備えを充実させるとともに、市民生活や事業活動への支援に努めてまいります。

この春、「ダムパークいばきた」

では、長さ日本一の歩行者用吊り橋「ゴウダブリッジ」が誕生いたします。「ダムパークいばきたコミュニティ」の皆さまには、人々が交流できる空間づくりを進めていただいていることに感謝と期待に堪えないところであります。引き続き、山とまちをつなぐハブ拠点となるべく取組を進めてまいります。

茨木市長 福岡 洋一



昨秋に開館1周年を迎えた「おにクル」は、年間200万人もの皆さまに来館いただき、「NHKのご自慢」や「竜王戦茨木対局」も、市民の皆さまの熱意とご協力により実現し、成功裏に終えることができました。「おにクル」での取組は、想像のはるかなめ上で進んでおります。今後も、多種多様な皆さまと挑戦を続けてまいります。

この1月から無償の中学校給食を開始したほか、小中学校体育館への空調設置が全校完了し、平時及び災害時の環境改善を進めてまいりました。引き続き、市民の皆さまが「安全・安心」を実感できるよう、誠意、取り組んでまいります。



令和7年度は、これからの茨木の10年を描く第6次総合計画のスタートの年であり、当計画では、共創の取組をまち全体へ広げていくまちづくりを中心に据えております。

共創の取組は、これまでから、まちの中心で、あるいはそれぞれの地域において、人のつながりを大切にしながら展開されてきたところであり、進化発展し続けております。

自己実現していける前向きな挑戦の「場」、生きづらさを感じたときにも自分の居場所と思える「場」、人や活動から元気をもらえ、つながりを感じられる「場」の存在が、「安全・安心」、「豊かさ・幸せ」の実感につながると考えております。

このような「場」がまちなかにあふれていくことを通して、コトとトキの共有や共感が生まれ、そこから生まれる活動がまちの景色になり、さらに新たな活動を呼び起こしていく、**共創が共鳴していくまちづくり**に、対話と議論を積み重ねながら、挑戦していく決意と覚悟であります。

皆さまにおかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。